

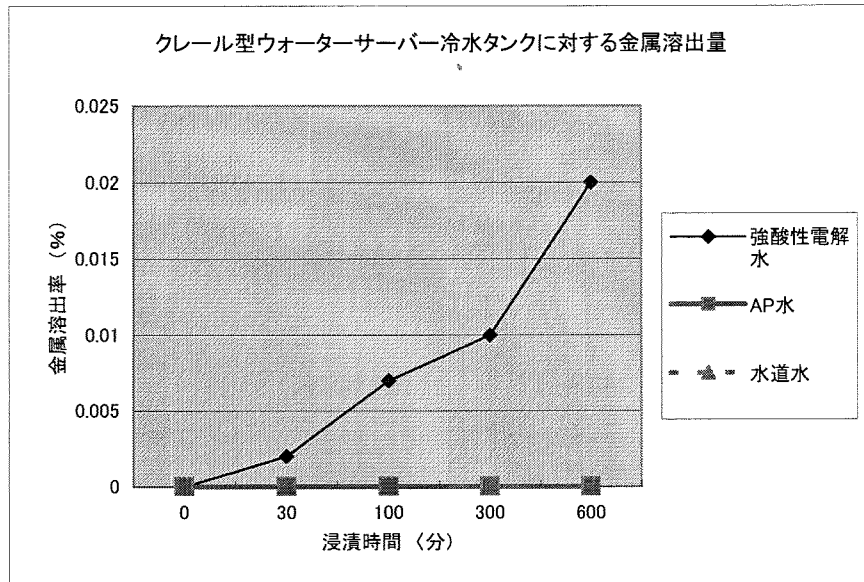
3) 冷水タンクに対する金属腐食性

試験方法)

試料： クレール冷水タンクを1cmx5cmの切片に切り取り、浸漬液としてAP水、強酸性電解水、水道水をそれぞれ30ml使用

測定： 所定時間ごとに浸漬液を抜き取り、ICP発光分析装置で金属として、鉄、クロム、ニッケル、マンガン、銅について濃度測定

結果)



(註) 2003年2月6日メーカー報告書より

強酸性電解水は金属溶出が時間ごとに増加しますが、AP水は水道水と同じく10時間浸漬で金属の溶出はほとんど認めませんでした。

4) ボトル充填後の有効塩素保存性

試験方法)

試料： AP水、強酸性電解水をアクアクララ12Lボトルにそれぞれ充填し、下表の条件で保存した

測定： 所定期間毎に有効塩素濃度を測定した。

結果)

	太陽光	充填量	有効塩素濃度 (ppm)		
			初発	2週間後	4週間後
AP水	遮光	満水	36	36	36
		半分	36	32	36
	照射	満水	36	36	36
		半分	36	36	36
強酸性電解水	遮光	満水	32	16	12
		半分	32	10	10
	照射	満水	32	18	14
		半分	32	10	8

強酸性電解水は遮光、照射に関わらず2週間で半分から3分の1に有効塩素濃度が低下します。一方、AP水は4週間まで安定であり、直射日光を当てずに、有機物などの混入がなければ、3ヶ月間において有効塩素濃度に著しい低下はありません。